

Ⅲ

社会教育の 現状と課題、 今後の展開

基本方針 1. 生きる力を育む学びの充実

- 重点目標 1－1 未来を担う人材の育成
- 重点目標 1－2 生涯を通じた学びと社会参加活動の推進
- 重点目標 1－3 社会教育推進のための基盤整備

基本方針 2. 文化芸術資源を活用したまちづくりの推進

- 重点目標 2－1 個性あふれる文化芸術の創造と継承
- 重点目標 2－2 将棋によるまちづくりの推進

基本方針 3. 次代へ伝える文化財の保存・活用

- 重点目標 3－1 文化財の保護と活用
- 重点目標 3－2 郷土芸能の保存と継承

基本方針 1 生きる力を育む学びの充実

重点目標 1－1 未来を担う人材の育成

< 現状と課題 >

青少年育成町民会議

生徒指導連絡協議会や連合PTA等と連携を図り、町内小学校付近の横断歩道手旗設置、ショッピングセンターでの夏・冬巡回指導を行っています。また、総会および町民大会での講演会では、青少年に関わる身近な課題や体験談等を題材にした内容で、参加者から好評を得ています。青少年健全育成に関わる各種団体と重複する活動や活動に対する温度差があることから、関係機関等と密接な連携を図りながら事業を調整し、効果的な活動を展開する必要があります。

連合PTA

町内の小中学校各単位のPTAが連携して、教育の振興を図るために活動しています。研究大会やレクリエーション大会を行い、コミュニケーションを深めています。児童生徒数の減少に伴い、会費収入や保護者も減っており、これまで通りの活動を維持することが難しくなっています。

子ども会育成連合会

役員が中心となり活動しているものの、少子化やスポーツ少年団活動、習い事など子ども達を取り巻く環境の変化・多様化により、会員の減少や単位会の廃止・休止が進んでおり、子ども会は過渡期を迎えています。今後は、学校・家庭・地域が連携して子どもの成長を支える仕組みづくりを考える必要があります。

二十歳の記念式典（成人式）

人生の区切りの式典として、成人としての自覚と責任を持つ（考える）機会を提供しています。祝賀会では、百石高等学校食物調理科による料理提供など多くの関係者やボランティアから協力を得て式典を運営し、参加者から喜ばれています。令和4年4月1日より、成人年齢が18歳に引き下げられました。式典対象者は20歳を迎える方を対象に「二十歳の記念式典」という名称で行う方針が決定しています。

あいさつ運動連絡協議会

のぼり旗の加除・設置やカレンダーの作成・配布、アンケート調査などを実施し、あいさつ運動を推進してきましたが、アンケートの結果などからあいさつが浸透してきたことや協議会自体が形骸化しているため、協議会の開催を休止していますが、あいさつの啓発活動は継続していきます。

放課後子ども教室

令和3年度までは、放課後子ども教室推進事業（文科省）と放課後児童健全育成事業（厚労省）の2制度で放課後児童対策（小学生の放課後の居場所づくり）を行ってきましたが、安心・安全な放課後児童保育の維持と地域格差を是正するため、令和4年度から全ての小学校区に放課後児童クラブを設置し、町内一律の均衡的な放課後児童保育を実施しています。また、令和5年度からは、地域学校協働活動として地域住民のボランティアを広く募集・登録するとともに、町内会・企業・各種団体に協力を依頼・連携し、地域とのつながりを深めながら拡大して実施しています。

おいらせの学びカレッジ子ども講座

子ども講座は、豊かな自然や郷土の文化に触れあえるような体験学習を行いながら、親子・友人の絆を深めることを目的に事業を実施し、募集方法や講座数、内容等をアンケートや実績を基に改

善を行いながら継続的に実施します。また、町内外の施設やNPO団体等の活用も検討しながら、子どもたちの情操教育に繋げていく必要があります。

子どもフェスティバル

町内の幼稚園・こども園・学校・サークル等の子どもが参加する団体が一堂に会して、日頃の練習の成果を発表する場として開催しています。参加した児童・生徒や保護者にとって刺激となり、文化・教育活動の活性化に繋がっています。

図書館事業

令和4年度に「おいらせ町子ども読書活動推進計画」を改訂しました。赤ちゃんに絵本を聞く体験と絵本をプレゼントするブックスタート事業は、赤ちゃんと保護者に絵本を通じて、心ふれあうひとときを持ってもらうきっかけとなっています。

また、従来から継続している「読書感想文コンクール」及び「読書スタンプラリー」により、本に親しみ・本で楽しむ機会を提供し、子どもの読書活動の推進を図ります。

< 重点施策（方向性） >

①青少年の健全育成

未来を担う青少年の健全育成のため、保護者や関係機関・団体と連携して各種活動を展開します。

②青少年の体験活動の充実

未来を担う青少年が、郷土への誇りや愛着をもち、将来のおいらせ町を支える人材となってもらうために、住民と行政が連携し地域全体で多様な体験活動機会の充実を図ります。

③子どもの読書活動の充実

おいらせ町子ども読書活動推進計画に基づき、図書館を中心に家庭・学校・関係団体が連携を強化し、子どもの読書に親しむ機会や読書環境の整備・充実など、子どもの読書活動を推進します。

④家庭教育支援の充実

教育の出発点である家庭の教育力を高めるため、学校や家庭教育支援チームなどと連携し、地域ぐるみの家庭教育支援の充実を図ります。

⑤学校・家庭・地域が連携し子どもを育む仕組みづくり

学校・家庭・地域が連携し地域全体で子どもの学びや成長を支え、地域を創生する仕組み「地域学校協働活動」を推進します。

重点施策	具体的事業	これまでの評価				今後の展開
		2	3	4	5	R7～R11
①青少年の健全育成	青少年育成町民会議	A	B	A	A	③見直し⇒再構築・統合
	青少年問題協議会	—	—	—	—	②継続実施
	連合PTA	—	A	A	A	②継続実施
	子ども会育成連合会	B	A	A	A	③見直し⇒再構築・統合
	二十歳の記念式典（成人式）	B	A	A	A	②継続実施
	あいさつ運動連絡協議会	D	—	B	B	④廃止
②青少年の体験活動の充実	放課後子ども教室	A	A	A	A	②継続実施
	おいらせの学びカレッジ子ども講座	A	A	A	A	②継続実施
	子どもフェスティバル	B	B	B	B	②継続実施

③子どもの読書活動の充実	子どもの読書活動の推進	—	—	—	—	②継続実施
	ブックスタート	—	—	A	—	②継続実施
	図書館事業（講座）	A	A	A	A	②継続実施
④家庭教育支援の充実	乳幼児期家庭教育学級	B	B	A	A	②継続実施
	小中学校家庭教育学級	B	B	A	A	②継続実施
	家庭教育支援チームとの連携	B	B	A	A	②継続実施
⑤学校・家庭・地域が連携し子どもを育む仕組みづくり	地域学校協働活動の検討・推進	B	B	B	B	②継続実施

※展開：①拡大実施 ②継続実施 ③見直し（再構築・統合） ④廃止（移管含む） ⑤新規実施

基本方針 1 生きる力を育む学びの充実

重点目標 1－2 生涯を通じた学びと社会参加活動の推進

< 現状と課題 >

おいらせの学びカレッジ一般講座

成人期の学習機会の目玉事業として、毎年 4 人程度の講師を招き開催しています。また、受益者負担の考えで実施する有料講座、その他、地元（県内）講師の人材活用、関係課と連携した併催型での運営など、限られた予算の中で幅広く事業を展開しています。著名人による講演は住民からの関心を得られやすく、行政が学んでもらいたいテーマを発信できる機会となっています。今後は予算と受講者アンケートや関係者からの要望等を踏まえて回数や内容を検討することとしています。

おいらせの学びカレッジ専門講座（公民館事業）

教養・地域・趣味の各分野のメニューから自分に合った学びを選択し、人生をより豊かにすることを目的に開催しています。非常に多くの町民が参加しており、特に料理やものづくりの講座が好評となっています。今後もアンケート等を参考にしながら、幅広い年齢層を対象に、多様な住民ニーズに対応する必要があります。

おいらせの学びカレッジ特別講座

青少年健全育成や地域・学校・協働などをテーマとした講師を招致し、地域で子どもたちを育てる環境づくりを考えていくため、青少年育成町民会議や連合 P T A など関係団体と連携した形での講演会事業への支援（共催・後援）を行い、町全体で青少年の健全育成についての理解を深めていくための事業にしたいと考えています。

図書館事業

令和 4 年度に「おいらせ町子ども読書活動推進計画」を改訂しました。赤ちゃんに絵本を聞く体験と絵本をプレゼントするブックスタート事業は、赤ちゃんと保護者に絵本を通じて、心ふれあうひとときを持ってもらうきっかけとなっています。

また、従来から継続している「読書感想文コンクール」及び「読書スタンプラリー」により、本に親しみ・本で楽しむ機会を提供し、子どもの読書活動の推進を図ります。

出前講座

町内会を対象とした開催が多く、高齢者の健康づくりや福祉に関するもの、体操・呼吸法・ストレッチ講習会、おいらせ音頭の振付講座などが人気となっています。また、小・中学校の体験学習や施設見学などでも活用されており、年間 50 回以上の講座が行われています。年に数回実施される人気の講座がある一方で、数年に 1 度の講座があることや、同じ団体が同じ講座を申込み等、一部に偏りもみられますが、町民の学習ニーズを把握しながら、これまで以上に多くの町民に主体的な学びと社会参加活動を推進していく必要があります。

高齢者教室

社会福祉協議会が主催する「ほがらか教室」の開講式の際に高齢者教室を開催しています。社会教育事業の一環として、文化、芸術活動、趣味、娯楽などを通して生きがいを見出し、自らを豊かにしてほしいという思いで開催しています。近年は、特殊サギ防止を啓発する講師を招くなど、分かりやすい内容だと好評を得ています。

生涯学習人材バンク

人材バンク登録者は、随時募集をしており出前講座等で積極的に活用されています。今後は、まだ登録されていない分野を中心に情報収集し、新たな人材発掘に努める必要があります。

生涯学習フェスティバル

「町民の融和」を目標に、生涯学習活動の情報提供や各種団体の活動紹介、活動者同士の交流により、活動の活性化やネットワーク化が図られています。来場者数は近年3～4千人となっており、関係者のほか地域住民へも浸透し、1年間の生涯学習活動の集大成として定着してきています。また、日頃の文化・芸術・学習活動を披露する場にとどまらず、多くの町民の主体的な社会参加活動の場として、準備から片づけまでを参加者が行っており、理想的な事業運営となっています。今後も、不参加団体へ積極的に呼びかけ、子どもからお年寄りまで町民一人ひとりが輝き、元気で明るいおいらせ町へつながる取り組みとして展開していく必要があります。

北公民館文化祭

有志にて役員会を組織し、さらに参加サークル等により構成された実行委員会にて実施方法等を検討する等、自主的に運営することとしていますが、年々参加団体数が減少しています。北公民館利用団体以外の地域団体や小学校からの協力を検討する等、引き続き自主的な運営を支援していく必要があります。

< 重点施策（方向性） >

①一人ひとりの主体的な学習機会の充実

地域の様々な課題を解決するため、関係団体と連携したおいらせの学びカレッジ等により、一人ひとりの主体的な学びや対話の場を提供します。

②学びの成果を生かした社会参加活動の推進

大人が生きがいをもち、いきいきと生活していくために、出前講座の講師や生涯学習フェスティバルへの主体的な参加など、学びの成果を生かした社会参加活動を推進します。

重点施策	具体的事業	これまでの評価				今後の展開
		2	3	4	5	R7～R11
①一人ひとりの主体的な学習機会の充実	おいらせの学びカレッジ一般講座	—	—	B	A	②継続実施
	おいらせの学びカレッジ専門講座	B	B	A	B	②継続実施
	おいらせの学びカレッジ特別講座	—	—	A	A	②継続実施
	図書館事業（講座）	A	A	A	A	②継続実施
	出前講座	B	B	A	A	②継続実施
	生涯学習情報提供	B	B	A	A	②継続実施
	高齢者教室（ほがらか教室との連携）	—	—	—	—	③見直し⇒社会福祉協議会へ移管を協議
	新規グループスタートアップ支援事業	—	—	—	—	③見直し⇒制度内容の精査
②学びの成果を生かした社会参加活動の推進	生涯学習人材バンク	B	B	B	B	②継続実施
	出前講座講師の活用	B	B	B	B	②継続実施
	生涯学習フェスティバル	—	—	A	A	②継続実施
	北公民館文化祭の支援	—	—	A	A	②継続実施

※展開：①拡大実施 ②継続実施 ③見直し（再構築・統合） ④廃止（移管含む） ⑤新規実施

基本方針 1 生きる力を育む学びの充実

重点目標 1－3 社会教育推進のための基盤整備

< 現状と課題 >

各種団体との連携強化

それぞれの団体が会議はもちろんのこと、各種事業や研修に積極的に取り組み、委員としての自己研鑽による資質向上に努め、委員活動の充実が図られています。また、審議会では事業評価を行い、次年度以降の事業実施に反映させることとしています。

あいさつ運動連絡協議会

のぼり旗の加除・設置やカレンダーの作成・配布、アンケート調査などを実施し、あいさつ運動を推進してきましたが、アンケートの結果などからあいさつが浸透してきたことや協議会自体が形骸化しているため、協議会の開催を休止していますが、あいさつの啓発活動は継続していきます。

社会教育団体等への活動支援

各社会教育団体に対しては、それぞれの団体が自主的な活動・運営が図られるように補助金による支援や、職員による事務等の活動支援を行っており、各団体ともに創意工夫しながら活動に取り組んでいます。

公民館機能の充実

町内にある3公民館では、文化協会や社会教育関係団体などのサークル活動が盛んに行われ、活動の拠点として利用されているので、なくてはならない施設となっています。

中央公民館は、当面の施設継続利用の方向性において、必要な設備の設置や著しい損傷個所の改善など最小限の維持修繕を実施していきます。

また、東公民館と北公民館については、町内で取り組む建物系施設マネジメントを徹底して、不具合箇所の早期発見や計画的な修繕に努め、施設の長寿命化を図ります。

図書館機能の充実

図書館では、専門的職員（司書）の増員や設備・図書の充実に努めてきました。令和2年度に民間活力やノウハウを活用する指定管理者制度に移行し、利用者へのサービスを維持し、向上しています。

みなくる館の活用・町民交流センター（小ホール）の活用

みなくる館や町民交流センター小ホールは、目的や規模に合わせて各種事業で活用されています。みなくる館については、指定管理第2期（令和5年度～9年度）が始まり、管理運営の基本方針に基づき、計画的に事業が進んでいます。

大山将棋記念館の運営

将棋教室や将棋大会でも使用されており、毎日将棋を指す常連客も増えています。しかし、将棋に特化した全国でも希少な施設であるにも関わらず、全国的な知名度は高いとは言えない状況であるため、もっと積極的に様々な方法でPRしていく必要があります。

こういった課題を解決しつつ記念館の運営を維持するため、令和2年度に民間活力やノウハウを活用するため、指定管理者制度に移行しています。

民具ふれあい館の運営

当館は町内小学校課外授業として利用されています。今後も、建物を適切に維持管理しながら、多くの児童・生徒に利用・活用してもらえるように周知する必要があります。

子ども会育成連合会

役員が中心となり活動しているものの、少子化やスポーツ少年団活動、習い事など子ども達を取り巻く環境の変化・多様化により、会員の減少や単位会の廃止・休止が進んでおり、子ども会は過渡期を迎えています。今後は、学校・家庭・地域が連携して子どもの成長を支える仕組みづくりを考える必要があります。

青年団

一般の若者がなかなか集まらない中で、役場の若手職員が中心となりボランティア活動や各種事業等を展開しているものの、今後の青年団そのもののあり方が課題となっています。

< 重点施策（方向性） >

①社会教育推進体制に充実

町民一人ひとりの主体的な学びの機会を充実するため、社会教育推進組織の機能の強化を図るとともに、関係団体との連携強化を図ります。

②社会教育施設機能の充実と活用の促進

町民の学習活動の場である公民館、みなくる館、図書館、大山将棋記念館の連携強化と、効率的で効果的な管理運営を図るため、必要に応じた改修等を実施しながら、民間への業務委託や指定管理者制度など、民間活力の活用を推進します。

③社会教育関係職員の資質の向上

町民の主体的な学びを支援する役割である職員や地域活動実践者等への各種研修機会を充実し、資質の向上を図ります。

④社会教育関係団体等の活動支援

社会教育関係団体やボランティアの自主・自立した活動を推進し、そのための活動を支援します。

重点施策	具体的事業	これまでの評価				今後の展開
		2	3	4	5	R7～R11
①社会教育推進体制の充実	社会教育委員会議	B	B	B	B	②継続実施
	上北地方社会教育連絡協議会	B	B	B	B	②継続実施
	公民館運営審議会	B	B	—	A	②継続実施
	町立図書館協議会	B	B	A	A	②継続実施
	あいさつ運動連絡協議会	D	D	B	B	④廃止
②社会教育施設機能の充実と活用の促進	公民館の管理運営	B	B	B	B	②継続実施
	図書館の管理運営	B	A	A	A	②継続実施
	みなくる館の管理運営	B	A	A	A	②継続実施
	大山将棋記念館の管理運営	B	B	A	A	②継続実施
	創作の家の管理運営	B	B	B	B	④廃止
	町民交流センター（小ホール）の活用	B	B	B	B	②継続実施

	民具ふれあい館の管理運営	B	B	B	B	②継続実施
	民間活力の活用の検討	A	A	A	A	②継続実施
③社会教育関係職員の資質の向上	各種研修等への派遣費補助	—	C	—	—	④廃止
	職員の専門研修会への派遣	—	A	—	—	②継続実施
④社会教育関係団体等の活動支援	子ども会育成連合会	B	B	A	A	③見直し⇒再構築・統合
	青年団	—	—	A	A	④廃止
	連合婦人会	B	B	A	A	②継続実施

※展開：①拡大実施 ②継続実施 ③見直し（再構築・統合） ④廃止（移管含む） ⑤新規実施

基本方針２ 文化芸術資源を活用したまちづくり

重点目標２－１ 個性あふれる文化芸術の創造と継承

< 現状と課題 >

芸術文化鑑賞事業

子どもに夢や目標を持ってもらい豊かな情操教育に繋げるため、小学校低学年、高学年、中学校と各年齢層に分けて普段直接見聞する機会の少ない優れた音楽や演劇、伝統芸能の鑑賞事業を実施しています。また、音楽や演劇、伝統芸能を各年齢層に３年サイクル程度で鑑賞できるよう計画していきます。

新年かきぞめ大会・おいらせ歴史と自然かるた大会

新年の文化イベントとして定着しており、文化・教育活動の活性化に繋がっています。今後は、書道団体や歴史と自然を愛する会による自立した運営を目指して支援する必要があります。

文化協会

文化団体相互の交流や文化の振興を図ることを目的としており、団体数や事業実施が多い団体です。段階的に町から自立して協会内部で事務局を持ち、自主的な運営をすることを以前から求められてますが、会員の高齢化による解散が増加しており、難しい状況となっています。

文化に関する表彰式

町民の模範となるような文化活動を顕彰し、活動に対するやりがいや励み、新たな挑戦へのきっかけづくりになるよう実施してきており、ほぼ受賞者全員が表彰式へ出席しています。今後も公平・公正に表彰するため情報収集と厳正な審査に努める必要があります。

おいらせ音頭

町民の一体感を醸成し郷土愛を深めるため、平成24年度に「おいらせ音頭」を制作し、町内の祭りやイベントの際に披露しています。今後も町民の一体感を醸成するため、さらなる普及を促進する必要があります。

< 重点施策（方向性） >

①文化活動・鑑賞機会の充実

子どもの豊かな想像力を育むため、芸術鑑賞事業等により優れた文化芸術に触れる機会を提供しています。また、より多くの町民へおいらせ音頭を普及するなど、郷土愛を深めるための文化活動の充実に努めます。

②文化団体の支援と指導者の育成

文化芸術活動を行う団体の自主・自立した活動への支援と、文化に関する表彰などによる人材育成に努めます。

重点施策	具体的事業	これまでの評価				今後の展開
		2	3	4	5	R7～11
①文化活動・鑑賞機会の充実	芸術文化鑑賞事業	—	A	A	A	②継続実施
	おいらせ音頭の普及促進	—	—	B	B	②継続実施

	新年かきぞめ大会 (かるた大会)	—	B	B	B	③見直し⇒自主運営へ
②文化団体の支援 と指導者の育成	文化協会	B	B	A	A	②継続実施
	文化に関する表彰式	A	A	A	A	②継続実施

※展開：①拡大実施 ②継続実施 ③見直し（再構築・統合） ④廃止（移管含む） ⑤新規実施

基本方針２ 文化芸術資源を活用したまちづくりの推進

重点目標２－２ 将棋によるまちづくりの推進

< 現状と課題 >

将棋の普及と人材育成

当町の特色ある将棋によるまちづくりを推進するため、全国将棋祭りをはじめ、大山将棋記念館を拠点とした各種将棋大会や将棋教室を、年間を通して開催しています。また、日本古来の文化である将棋を通して、将棋の持つ教育的効果による子どもを中心とした人材育成に努めています。今後も、当町ならではの将棋事業を展開するための愛好者や指導者、将棋団体の育成・支援を進める必要があります。

おいらせ町将棋まちづくり実行委員会

当該組織において「おいらせ全国将棋祭り」をはじめとした、町の将棋事業の方針及び内容等を決定しております。今後も、事業内容及び効果の検証をし、効率的な事業を展開するとともに、組織強化を図っていく必要があります。

おいらせ全国将棋祭り

女流棋士公式戦である「倉敷藤花戦おいらせ対局」、「大山十五世名人杯争奪将棋大会」「プロ棋士との指導対局」など、その他様々なイベントを開催しておりますが、内容を検証し、より効率的な集客・PRができるように、イベント内容を精査して開催する必要があります。

将棋大会、将棋教室

「将棋教室」は、通年で将棋を継続的に続ける場として、「将棋大会」は普段の練習の成果を発表する場として開催しており、今後もより一層の内容の充実を図り、子どもへの将棋による教育的効果を図っていく必要があります。

大山将棋記念館の運営

将棋教室や将棋大会でも使用されており、毎日将棋を指す常連客も増えています。しかし、将棋に特化した全国でも希少な施設であるにも関わらず、全国的な知名度は高いとは言えない状況であるため、もっと積極的に様々な方法でPRしていく必要があります。

こういった課題を解決しつつ記念館の運営を維持するため、令和２年度に民間活力やノウハウを活用するため、指定管理者制度に移行しています。

< 重点施策（方向性） >

①将棋の普及と人材育成

当町の特色ある将棋によるまちづくりを推進するため、大山将棋記念館を拠点に町内外に情報発信を行い、将棋団体や指導者、愛好者との連携を強化し、子どもへの将棋の普及奨励・底辺拡大、人材育成に努めます。

重点施策	具体的事業	これまでの評価				今後の展開
		2	3	4	5	R7～11
①将棋の普及と人材育成	おいらせ町将棋まちづくり実行委員会	A	B	B	A	②継続実施
	おいらせ全国将棋祭り	—	B	B	A	②継続実施
	各種将棋大会	—	B	A	A	②継続実施
	各種将棋教室	A	A	A	A	②継続実施
	大山将棋記念館の管理運営	A	A	B	A	②継続実施

※展開：①拡大実施 ②継続実施 ③見直し（再構築・統合） ④廃止（移管含む） ⑤新規実施

基本方針３ 次代へ伝える文化財の保存・活用

重点目標３－１ 文化財の保護と活用

< 現状と課題 >

文化財の保護・継承・活用

各種開発へ対応するため、引き続き埋蔵文化財包蔵地の周知を徹底していく必要があります。

史跡阿光坊古墳群・おいらせ阿光坊古墳館の管理運営

古墳群は史跡公園として整備され7年が経過し、文化的価値の高い資料を身近でみることができ、開館7年目を迎えたおいらせ阿光坊古墳館についても適切に管理し、多様な学習機会を提供するなど、住民との協働により文化財を保護・活用していく必要があります。

史跡阿光坊古墳群・おいらせ阿光坊古墳館のPR

古墳群や古墳館のPRのため、現地講座や歴史講座、学ぼう講座など各種講座を開催し、町内外から多くの来館者を迎えています。来訪したことが無い町民も多数いるため、新たな体験学習メニューなどを開発しながら、情報発信していく必要があります。

< 重点施策（方向性） >

①文化財の保護・保存

関係機関と連携しながら、文化財の計画的な調査・記録やパトロールなどにより、文化財の保護・保存に努めます。

②史跡等の管理・活用

史跡阿光坊古墳群やおいらせ阿光坊古墳館を適切に管理するとともに、町内外への情報発信を工夫しながら運営し、文化財の活用に努めます。

③住民との協働による文化財の活用

貴重な文化財に対する町民の理解と郷土愛を育むために、ボランティアガイドの養成や活用に努めるとともに、地域住民との協働による史跡の整備・活用に努めます。

重点施策	具体的事業	これまでの評価				今後の展開
		2	3	4	5	R7～11
①文化財の保護・保存	文化財保護審議会	A	A	A	A	②継続実施
	文化財の管理・周辺整備	A	A	A	A	②継続実施
	文化財の計画的な調査・記録	A	A	A	B	②継続実施
	文化財パトロール	B	B	B	A	②継続実施
②史跡等の管理・活用	史跡阿光坊古墳群の管理・活用	B	B	A	B	②継続実施
	おいらせ阿光坊古墳館の管理運営	B	B	A	B	②継続実施
	文化財の公開・活用	—	—	—	—	②継続実施
③住民との協働による文化財の活用	阿光坊古墳群保存会の支援	A	A	A	A	④廃止
	ボランティアガイドの養成・活用	A	A	A	A	②継続実施
	協働による史跡の保護・整備・活用	A	A	A	A	②継続実施

※展開：①拡大実施 ②継続実施 ③見直し（再構築・統合） ④廃止（移管含む） ⑤新規実施

基本方針３ 次代へ伝える文化財の保存・活用

重点目標３－２ 郷土芸能の保存と継承

< 現状と課題 >

郷土芸能活動

郷土芸能を保存し、後世まで継承していくためには、後継者の育成が大きな課題となっております。百石えんぶりや本村鶏舞をはじめとした各郷土芸能において、指導者の高齢化や後継者対策として、子ども教室の開設等による各団体への支援を継続していくことや、郷土芸能継承に関する理解を深めるため、学習機会の提供や広報等での町民への周知に努めています。

子どもえんぶり・子ども鶏舞教室

町内全小中学校への募集や新聞、テレビ等マスコミによる周知により、参加者は増加傾向にあります。今後も興味を持ってもらうために継続してPRする必要があります。

< 重点施策（方向性） >

①郷土芸能の継承と後継者育成

郷土芸能団体と連携しながら、子どもの郷土芸能活動を推進し、指導者や後継者の育成を支援することで郷土芸能を後世に継承します。

重点施策	具体的事業	これまでの評価				今後の展開
		2	3	4	5	R7～11
①郷土芸能の継承と後継者育成	郷土芸能団体の支援	A	A	A	A	②継続実施
	子どもの郷土芸能活動の推進（えんぶり・鶏舞）	—	—	A	A	②継続実施

※展開：①拡大実施 ②継続実施 ③見直し（再構築・統合） ④廃止（移管含む） ⑤新規実施

令和6年度の事業の様子



親子追跡ハイキング(春)



子ども会(県リーダー研修)



みんなのフェスタ(展示)



みんなのフェスタ(子どもフェスティバル)



新年かきぞめ大会



二十歳の記念式典(成人式)